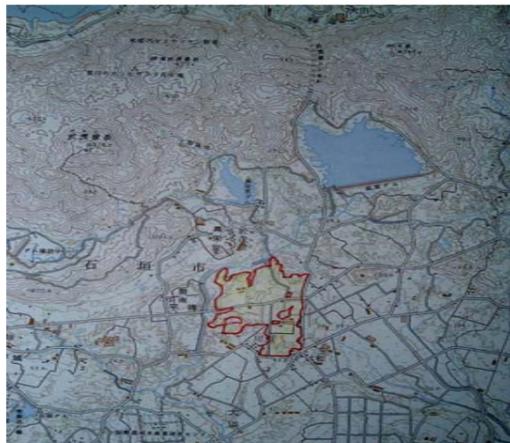


《県営畑地帯総合整備事業》 石垣市 三川地区

地区の概要

石垣島の年平均降雨量は、2,000mmを上回るものの、大部分は未利用のまま海へ流出していた。毎年のように干ばつの被害を受け、恒久的な用水対策が望まれていた。国営かんがい排水事業で農業用ダムが平成4年度に完成し、水無し農業からの脱却に見通しが着いた。

当地区は、昭和60年から平成10年に完成した地区である。区画整理A=43.0ha、畑地かんがいA=110.0ha、事業費13億5,800万円を投じて整備した地区である。



三川地区位置図

農地の整形、規模拡大

当地区は、旧豊見城村より自由移民によって、形成されたもので、地形的に暖傾斜地で酸性土壌が大半を示し、一部自己開墾によりパインの生産を行っていた。土質的にレキ質土が多く他の作物に転換が難しく、不整形なため農地の規模拡大と農業基盤整備が望まれていた。

本事業の結果、農業機械が大型化し植付け等の省力化が図られている。(図-1) また、畑かん施設の整備により、干ばつ被害の解消と品質向上や高価作物への転換が図られ、規模拡大が少々増えてきている。

水の恩恵

農業に欠かすことのできない[水]は、営農の絶対条件である。

当地区の側を流れ、水田に利用されてきた宮良川の豊かな水源を活用して、宮良川流域の農業用水を確保するために、受益面積A=3,460haの国営かんがい排水事業が計画され昭和50年に着手された。底原ダムと二つの堰が完成し、平成5年度より沖縄県と土地改良区が管理委託を受けて農家へ安定した水の供給をおこなっている。それまでは、サトウキビとパイン中心であったが、干ばつ被害が解消されると共に作物の多角化が少しずつ増えてきている。(図-2)

事業整備前に比べて農家所得の向上と高収益性の作物等によると思われる。(図-3)

図-1 農業機械の大型化

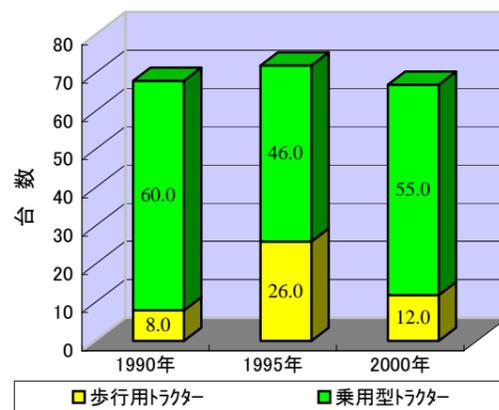


図-2 作物経営の多角化

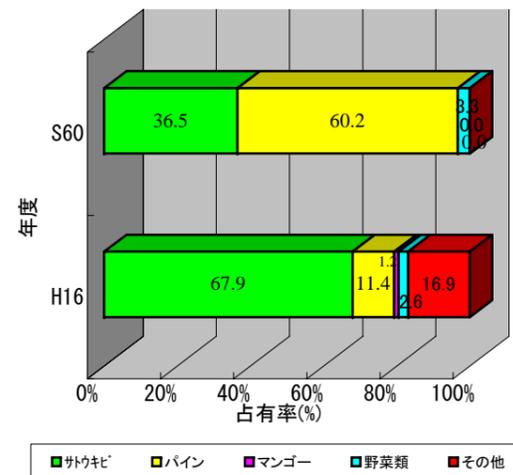
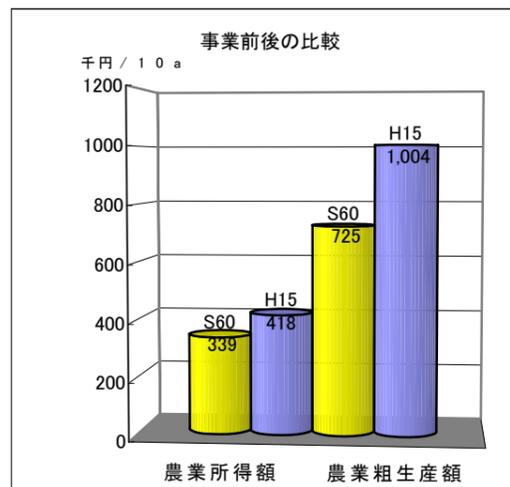


図-3 事業前後の所得比較



事業実施の効果

- ① 農業機械の大型導入による省力化
- ② 農地の集約化による効率性の向上
- ③ 畑かん施設による水の安定供給
- ④ 作物の選択拡大及び品質向上
- ⑤ 粉塵及び塩害防止対策の促進
- ⑥ その他(底原ダム建設による環境景観の整備)



写真-① スプリンクラーによる散水



写真-② オータニワタリのハウス栽培



写真-③ ニラのハウス栽培



写真-④ 底原ダム

農業後継者のゆくえ

石垣市は、サトウキビと水田、そしてパインの栽培が中心であったが、最近では亜熱帯果樹や花卉等が増えて多角化している。当地区でも、事業実施前はパインが大半以上であったが、工場の閉鎖によりパイン産業が衰退し、マンゴー等への転換も見受けられる。また、サトウキビは農業の機械化が進み人手を必要としない迄になってきている。

しかし、当地区も基盤整備が済んで水無し農業から脱皮したにも拘わらず、「後継者」が育成でないのが、大きな問題を抱えている。専業農家の殆どが整備前は50歳前後の方々が、今では70歳前後と高齢化が進み、農業人口も減少傾向へ進んでいる状況にある。後継者の育成に打つ妙薬は無い物が今後の課題である。なお、最近では、パインの生果に人気があり、郵パック産業に追われている状況で期待したいものです。